

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 神戸YMCAタンポポくらぶ

公表日 令和7年 2月 25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		生活スペースと運動プログラムをする部屋とが別れている	お部屋の移動があるので切り替えがスムーズにできるような関わりが必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		月～金まで毎日なので関わる職員が総入れ替えにならないような配置で子供たちの支援をしています。	週回りの職員に対しては、引き継ぎやこれまでの子どもの経過などを丁寧に連絡しあいます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間の部屋の中にトイレも設置され、一人一人の年間通して使用するロッカーがあります。	子どもたちにとって安全でわかりやすい場所となるように配慮をいたします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃だけでなく、整理整頓を心がけています。	おもちゃや絵本など選別し、必要な分を設定するよう努めます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		気持ちを落ち着けクールダウンできるような関わりをしています。	別の部屋に連れて行くようなことはありませんが今後必要なら検討します。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		学期ごとに会議をし、これまでの振り返りや今後の目標について話をします。	必要に応じて話し合いの機会を設定します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員みんなに周知し、業務改善につなげています。	保護者の評価に対し、改善策を今後も共に考えていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日常から話しやすい環境づくりをしています。	日常から意見を交換しやすい環境を心がけています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		巡回支援に来ていただきました。	子どもの特性などを改めて確認する機会となり支援に役立ちます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内での必要な研修だけでなく、職員の希望する研修があれば受講しています。	日々の忙しい中でも、職員の資質向上のため研修への参加を努めていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保育型療育の部分では身辺自立を支援し、中心となる運動プログラムでは体づくりの支援がされています。	タンポポくらぶの特色がより分かりやすいお伝えできるよう改善していきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		個別の面談で丁寧に聞き取りをして作成しています。	今後も、子どもと保護者の思いを聞き取り支援していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が作成した案を関わる職員に提示し、そのうえで子供にとってより良い支援になるよう検討をし、作成しています。	関わる職員全員がより支援の内容を理解して取り組めるように周知し支援いたします。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ミーティングを行い支援計画を共有しています。	今後も、支援計画の内容を理解したうえで子どもたちの関わりを大切にしています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察が中心となり、アセスメントを行っている。	標準化されたツールについては用いるように改善いたします。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		設定しています。個別支援計画を保護者に説明するときにお伝えしています。	引き続き、具体的な支援内容を設定作成し、お伝えしていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		その日を進める担当はありますが、プログラムの内容などはチームで立案し、行っています。	今後も事前、事後のミーティングにより必要な活動内容を確認して取り組んでいきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員全員で毎回どんなプログラムが今利用している子どもたちに必要かを話し合った決めています。	これから子どもたちが興味を持ち取り組めることを考慮し固定化しないように工夫していきます。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別の対応と集団での対応を考慮したうえで支援計画を作成し支援をしています。	子ども一人一人の状況に応じ、支援すべき内容を判断していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日、事前に打ち合わせを行い、プログラム終了後も振替を行っています。	これまで通り、チームで連携をしています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	プログラムの内容についてはもちろん、子ども一人一人の様子や関わり方についても共有している。	今後もより丁寧に行っていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	その日のプログラム終了後に必ず記録をとり、次の支援へとつなげています。	今後もより丁寧に行っていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	必ずモニタリングを行い、見直しを検討してから、次の支援計画を作成しています。	今後も保護者の方々にモニタリングをお伝えし、次に必要な支援を丁寧にお伝えしていきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	ケース会議を定期的実施しています。	ケース会議でより子どもの理解が深まるような機会となるよう努力していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	ケース会議を定期的実施しています。医療的観点からの支援を聞く機会でもあり、とても勉強になります。	より子どもの特性の理解が深まる機会として引き続き行っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	必要に応じ、併用利用の事業所や就園先、就学先との連携をしています。	併用している事業所との関わりはまだ薄いので、今後連携をしていき、情報共有と相互理解を深められる体制を目指します。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	必要に応じ、就学先との連携をしています。	情報共有と相互理解が深められるよう連携の機会を積極的に取り組みます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	地域の児童発達支援センターとの連携をしています。巡回支援等で助言を受けることがあります。	スーパーバイズや助言等を受ける機会は少ないので今後連携を深めていき必要に応じて機会を設けたいと思います。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	園庭開放に参加しています。	今後も多くの活動の機会が持てるようにいたします。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時、連絡帳、参観日、親子プログラム等で伝えあう機会が多くあります。	今後もより伝えあいやすい環境と関係づくりを目指していきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	親子で参加できるプログラムや保護者会の機会があります。	家族等の参加できる研修の機会や情報提供などはできていないので、今後そのような機会が設けられるようにしていきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	丁寧に説明をしています。	保護者の方々により分かりやすく丁寧に説明をしています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	保護者の方々の意思の尊重をし、受け止め、支援計画を作成しています。	保護者の方々の話をよく聞き、子どもの最善の利益の優先を考慮した支援計画の内容をお伝えしていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明をし、同意していただいています。	今後も保護者の方々の同意をきちんと得られるよう丁寧な対応をしています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	年に3回の面談を行っています。その他、保護者の希望があれば随時、相談や面談を行います。	今後も、定期的な面談、それ以外でも必要な時の相談や、面談が行える環境と関係性を築いていきます。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	親子プログラム、保護者会、参観など保護者同士の交流の機会があります。	きょうだい同士が交流する機会は支援できていないので今後は一緒に参加できるプログラムを検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	保護者からの申し入れなどに対し、丁寧に誠意を持った対応を行っています。	今後も相談や申し入れに対し迅速かつ適切な対応をしていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月のクラスだよりや行事予定表の配布、またHPの更新、SNSなど活用し保護者の方々に発信しています。	保護者の方々が楽しめ、安心安全な配信をし、HP・SNSなどの発信、更新をしていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報は、事務所内のカギのかかる棚に保管、管理しています。HPやSNSに載せる場合は、確認を取ります。	引き続き十分な配慮をいたします。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	配布物などはわかりやすく伝わりやすい文章で示し、言葉で伝える時も要件を端的に話すよう意識しています。	今後も、伝わりやすいように配慮していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域住民を招待する等の事業所の行事は行っていません。	地域の住民を巻き込んだ行事が行えるか検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	年に3回訓練をしています。避難訓練等は保護者にもお知らせをしています。	今後も職員や家族に周知するとともに、発生の想定内容などを変え訓練を実施していきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	年に3回訓練をしています。避難訓練等は保護者にもお知らせをしています。	発生の想定内容を変え、いろんな状況に対応できるように定期的な訓練をしていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	保護者からの連絡帳に記載されていたり、送迎の時に確認しています。	今後も確認を怠らないようにしていきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	事前に保護者にアレルギーについての確認をしています。	今後も、アレルギーについての情報を確認し、必要な子どもに対しては適切な対応をしていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全への意識を高め、危険が潜んでも想定した上で安全にプログラムを行うことを周知している。	子どもたちの安全を守るため職員全員が意識を高く持つように周知していきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	契約する際に、避難場所をお伝えし、緊急の場合の連絡先もお知らせいただいています。	日ごろから家族との連携が図れるように保護者の方々にお伝えしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	すぐに対応策を検討し、再発防止に向け、職員全員で共有し同じことが起こらないように周知します。	ヒヤリハット事例が起こらないように日常から安全に注意していきます。起こったときは、再発防止策を検討し、職員全員に周知します。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	日常から風通しの良い環境を保ち、虐待防止研修も学期ごとに行っています。	今後も虐待防止研修を行います。重要な研修なので職員全員が共通理解し、関わる子どもたちを守っていく意識を高めていきます。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束を行う方はいませんが、行わなければならない場合の説明は事前にします。	身体拘束が必要となった場合は、説明、児童発達支援計画への記載は必ず行います。	